



想おとせぬしに

新宿区議会第1回定例会は、平成27年2月20日から3月23日まで行われました。この期間に予算特別委員会が行われ、**野もとあきとし**は、副委員長を務めさせて頂きました。皆様から頂いている、ご意見・ご要望を新宿区政に反映できるように取り組ませて頂きました。

在宅療養体制の充実を！

野もとあきとしは、3月4日の予算特別委員会の総括質疑に立ち、「在宅療養体制の充実」について質問しました。

平成27年度の新規事業の「介護職員の複合施設での実習研修」や「訪問介護ステーション連携推進事業」、「在宅療養スタッフの作成」、平成27年度に拡充される事業の「在宅人工呼吸器」、使用者災害時支援事業について、事業内容の確認と今後の取り組みの推進を訴えました。

地域の見守りについて

新宿区内の高齢者人口に占める一人暮らし高齢者の割合は、東京23区で最も高く、高齢者の約3人に1人が一人暮らしという状況です。

国の将来推計によれば、認知症高齢者の増加も見込まれることから、見守りが必要とする方が急速に増えることが予想されます。



急に必要があると判断した場合、東京都に広域照会し、警察などに情報提供を迅速に行うことを説明しました。

また、日常的な見守りにおける個人情報情報の取り扱
いについては、警察や町会連合会、民生委員、高齢者
事業者などのメンバーで構成されている高齢者と権利
擁護協議会の中で仕組みづくりなどを検討すると答
えました。

歩行補助車の普及推進を

野もとあきとしは、富山大学大学院の
中林美奈子准教授の「社会資本の活性化を取
り導く歩行圏コミュニティづくり」の取
り組みを紹介し、歩行補助車の活用を訴え
ました。

歩行補助車により「体の弱ったお年寄りも自分で歩き、生活を楽しむようになる」ことや、「虚弱になっても積極的に外出できる」ことなど、地域のコミュニティと共に取り組まれています。

シブサは、課長保険介護、歩生、日常、を含め、力、は、器具、用、援、支、援、を、認、識、し、て、い、る、と、述、べ、ま、し、た、。



また、最近では、坂道でブレーキがかかるものなど、技術が発展していることなどを述べ、一人ひとりに合った自立度を設定し、歩行補助車を活用して、元気に外出していただけるよう支援していくと表明しました。

野もとあきとしは、2月25日の公明党の代表質問をふまえて、予算特別委員会で「胃がウイルスABC検査の導入」を訴えました。「この検査は、ピロリ菌の有無と胃の萎縮度を血液検査の結果で判定するものです。」

昨年9月に「国際がん研究機関」は、全世界の胃がんの8割が、ピロリ菌感染が原因であるとの報告書を発表し、ピロリ菌除菌により30〜40％減る可能性があることから、各国がピロリ菌を考慮した胃がん対策をとるようすすめています。

現在、国においては「がん検査のあり方に関する検討会」で、ピロリ抗体を用いた検査について、検討が行われており、

平成27年8月には、報告書を取りまとめ、「がん予防重点教
育及びがん検診実施のための指針」を改正する予定です。
野もと あきとし 区は国の検討を定めて、現在のところ、がんの意識を高める世代の予防に力をつけて、科学的知識を普及し、
が非常に重要とできています。
また、財政課は「見定めていかなければ」と述べています。



胃がゆりスクABC検診の早期導入について